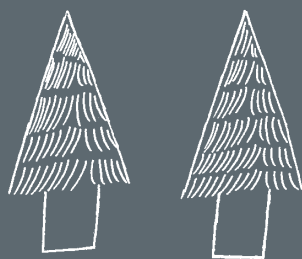


「北欧、暮らしの道具店」の 心地いいすっきり暮らし

日常が楽しくなる 暮らし・収納・家事のアイデア





「北欧、暮らしの道具店」の 心地いいすっきり暮らし

日常が楽しくなる 暮らし・収納・家事のアイデア



はじめに

いつの頃からか、インターネット上に楽しげな雑貨店が登場していました。その名は、「北欧、暮らしの道具店」。買い物予定がなくてもつい訪れてしまう魅力があり、ちよつとのぞくだけでなんとなくワクワク。自分ももつと暮らしを大切にしよう、そんな気持ちにさせられる、楽しいネットショップです。

その理由のひとつはショップ内に毎日のように掲載されるコラムです。商品紹介にとどまらず、スタッフの日常の小さな楽しみだったり、暮らしを心地よくするちよつとした工夫だったり。最近ではプロの料理家や収納アドバイザーへの取材コラムなどもあります。その中に出てくる質問も等身大。「あ、聞いてみたかった」と思わせるものが多いので、暮らしのヒントや、暮らしをよりよくしようというやる気が自然にもらえるのです。

そのコラムの中で、ちらちらと垣間見えるスタッフ宅のインテリアやすつきりした暮らしぶりも興味深いところ。どのスタッフも自分の暮らしを心地よくしよう、楽しもうと考え、小さな工夫を積み重ねていることがネット上からも伝わってきます。そんな暮らしをもっと見たい、もっと暮らしのヒントをもらいたいという思いがこの本のはじまりです。きつと同じように感じている「北欧、暮らしの道具店」のファンの方たちと、ショップのことは知らずに、この本のたまたまが気になって手にしてくださいました読者に代わって、スタッフの「心地いいすつきり暮らし」をのぞかせてもらいました。



はじめに

「心地いいすっきり暮らし」とは、

自分基準で作り上げる暮らし

ちよつとのあこがれをプラスして暮らしをもつと心地よく

この本に登場する「北欧、暮らしの道具店」のスタッフ

「北欧、暮らしの道具店」のこと

002

006

008

010

012

PART 1

すっきり暮らすための習慣&決めごと

「すっきり」は手段であり、目標ではない

掃除&片づけを優先しなくていい

収納スペースをどんどん増やさない

モノを持ちすぎないラクさ&身軽さを大切に

使うところに使うモノを収納する

あふれてきたら、持っているモノを見直す

気分をアップさせる収納グッズを準備する

014

015

016

017

018

019

020

壁を有効に使うと、便利だけでなくかわいい！

S字フックは小さいけれど、万能収納グッズ

トレイにまとめるだけで、片づいて見える

あえてセットで揃えないという考え方

日用品こそ、好きなモノを選ぶ

何通りも使い道を考えてから購入する

022

024

026

028

030

032

PART 2

スタッフのすっきり暮らしを拝見

STAFF1 佐藤店長宅

STAFF2 青木さん宅

STAFF3 桑原さん宅

STAFF4 安田さん宅

STAFF5 齋藤さん宅

STAFF6 上山さん宅

STAFF7 加藤さん宅

034

046

054

060

070

078

084

「北欧、暮らしの道具店」で人気のすっきりグッズ Best 5

092

PART 3

すっきり暮らしに欠かせない

家事アイデア

家事はすぐ取りかかれるようにセットを作っておく

かわいいブラシを準備して思いついたときにつと掃除

家事を小さなイベントに見立てて

ワクワク楽しみながら取り組む

“ここだけは、いつもきれいな”という小さなルールを決める

家事をリフレッシュする時間、心を整える時間にする

日々の家事の中に、楽しさを見つけることから始める

ついでに行う小さな習慣で

汚れをためない暮らしを手に入れる

「北欧、暮らしの道具店」で人気の家事グッズ Best 5

108

106

104

102

100

098

096

094

PART 4

すっきりをキープするための、

暮らしの“ワクワク感”

模様替えは大きかりにする必要なし

クッションカバーを替えるだけでOK

椅子の配置換えだけで新鮮な気持ちに

花やグリーンを飾って暮らしを慈しむ

テーブルにクロスを敷いて“非日常”

気持ちのリセットで暮らしにメリハリを

手を加えてわが家のオリジナルに

トーストの焼き方を変えてみる

写真に撮って客観的な視点を持つ

おわりに

126

124

122

120

118

116

114

113

112

110

“心地いいすつきり暮らし”とは、 自分基準で作り上げる暮らし

この本では、「北欧、暮らしの道具店」のスタッフ7人が暮らす、実際のお宅にお邪魔し、その暮らしぶりをのぞかせてもらっています。同じ会社に勤めているとはいえ、当然、暮らしは7者7様で別の暮らしです。でも、そこには共通項がありました。それは自分にとっての“心地いいすつきり暮らし”を楽しんでいるということです。

「これが絶対正解という“心地よさ”ってないと思うんです。心地いいと思う空間や暮らしは人によって違いますよね。わたしもスタッフも、ただ自分にとって、そして家族にとっての心地よさを大切にしたいと思っています。わたしの場合の心地いい暮らしは、好きなモノに囲まれた日常があること。有名ブランドだから、流行しているからという他者の視線を意識した“好き”ではなく、あくまでも自分基準の“好き”。そして好きなモノが輝いて見える



よう、すっきりした空間を保つことも大切にしています」と佐藤店長。

「北欧、暮らしの道具店」は、名前からもわかるように、スタートは北欧雑貨を中心に扱うショップでした。でも続けていくうち、北欧やだれかの暮らしをそのまま取り入れるだけでは、自分にとっての心地いい暮らしにはならないという、あたり前のことに改めて気がつきます。大切なのは、自分自身が心地いいと感じる暮らし。そこを目指すことこそがいちばん必要なことと考え、徐々に北欧に限らず、スタッフの目線でいいと思うモノをセレクトし、ショップで紹介することが増えてきました。

プライベートの暮らしも同じです。スタッフ全員、それぞれが自分軸の価値観に合うモノをたくさん選択肢から選び出し、組み合わせさせて暮らしています。自分がいいと思うモノを選び、自分が使いやすいように収納したり、飾ったり。組み合わせ、自分の暮らしにフィットさせているのです。そうすることで、その人らしさが生まれ、その人らしい心地いいすっきり暮らしになるのです。



ちよつとのあこがれをプラスして 暮らしをもっと心地よく

ある日、「北欧、暮らしの道具店」の佐藤店長は、大好きなパン屋さんで新作のマフィンを見出し、購入しました。とてもおいしそうなマフィンだったので翌日の朝食が楽しみになったそう。すると朝はウキウキと目が覚め、いつもよりもていねいにコーヒーをいれたくなりました。そしてはりきってテーブルコーナーダイネットまで！ マフィンひとつで、こんなに「非日常」を感じ、ワクワクすることができると再認識したそうです。

「人って小さなことでワクワクできるんですよ。面倒だなと思う家事も、あこがれていた道具を揃えたり、かわいいグッズに収納したりするだけでわたしは楽しくなります。いきなりホテルのような生活感のない暮らしを目指すのは無理ですし、現実味がありません。自分



の身の丈に合わず、結局心地よくないと感じる気がします」と佐藤店長。

だから、突然、無理をして大きな背伸びをするのではなく、ふだんの自分の暮らしに、ちよつとずつのあこがれや「非日常」をプラスすることで、暮らしを楽しくし、心地よくしようと考えるようになっていきました。

「身の丈」という言葉、最近よく耳にします。かっこつけず見栄をはらず、自分が自然体でいられる状態、つまり自分相応という意味で使われています。佐藤店長も身の丈の暮らしはいつも意識しているそう。「無理な背伸びは苦手です。でも、ずっと現状の暮らしを維持すればいいと思っっているわけでもありません。今の暮らしは大好きで自分なりに心地よく暮らしています。でも、あこがれや夢も持っていて、この先の暮らしをよりよくしたいという気持ちも大切になっています」。



日常の中に無理のない範囲で「非日常」をちよつぴりプラスしたり、身の丈の暮らしの中であこがれや夢を少しずつ実現したり。そんな小さな繰り返しですが暮らしをより楽しく、より心地よくしてくれるのです。

STAFF

2

青木さん

以前は「北欧、暮らしの道具店」の実店舗の運営を担当。実店舗閉店後は、ネットショップでの商品紹介、特集ページを作成する編集チームに所属。夫、小2の長男との3人暮らし。

STAFF

3

桑原さん

古株社員のひとり。受注＆問い合わせ対応を担当する、お客さま係チームのマネジャー。物流管理や小冊子「暮らしノオト」の製作にも関わっています。スウェーデン人の夫と2人暮らし。

この本に登場する
「北欧、暮らしの道具店」
のスタッフ

STAFF

1

佐藤店長

ネットショップ「北欧、暮らしの道具店」を兄とともに立ち上げ、店長として商品セレクト、ネットで取り扱う記事、新規プロジェクトなど運営全般に関わっています。夫、3歳長男との3人暮らし。

STAFF

6

上山さん

大手ネット企業の広報から転職。お客さま係チーム所属。お客さまに気持ちよくお買い物をしてもらうために、日々奮闘中。食の新ブランド「KURASHI &Trips」も担当。夫と2人暮らし。

STAFF

7

加藤さん

商品紹介ページなどを作る編集チーム所属。「北欧、暮らしの道具店」で働きたいからと前職を辞め、デザイン学校で勉強していたほど、ショップに愛情を持っています。夫と2人暮らし。

STAFF

4

安田さん

古株社員のひとり。従来からのモノ好き、買い物好きを生かし、バイヤーとして「北欧、暮らしの道具店」で扱う商品のセレクト、仕入れ交渉などを担っています。彼と2人暮らし。

STAFF

5

齋藤さん

ネットでの商品紹介ページや特集記事を作成する編集チームのマネジャー。撮影、スタイリング、取材、原稿執筆とマルチにこなしています。夫と2人暮らし。もうすぐママに。